

第3号議案

## 平成27年度事業計画

## 1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

### 科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は、科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

平成27年度の科学研究補助金は、継続研究課題として8件11,100千円が内定しており、新規研究課題として15件56,599千円を現在申請中で、審査結果を待っている。

#### (1) 継続研究課題

##### 基盤研究（B）一般

「出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について」

平成26～29年度 植田直見 2,700千円

「日本中世における葬送墓制の統括的研究」

平成26～30年度 狭川真一 2,300千円

##### 基盤研究（C）一般

「日本国内所在・台湾原住民族資料とその来歴の基礎的研究」

平成25～27年度 角南聡一郎 1,600千円

「アーカイブにおける短命資料の保存に関する研究」

平成25～27年度 金山正子 700千円

「古代アジアにおける組紐製作技法の発生と伝播に関する基礎的研究」

平成25～27年度 小村眞理 1,100千円

「出土櫛から見た古代東アジアにおける葬制の比較研究」

平成25～27年度 木沢直子 1,500千円

「東アジアにおける石材利用技術の地域性と伝播・展開に関する基礎的研究」

平成26～28年度 佐藤亜聖 700千円

若手研究（B）

「平安期緑釉陶器の色彩学的研究」

平成25～27年度 田中由理

500千円

(2) 新規研究課題（計15件申請中）

新学術領域研究・研究領域提案型	1件
基盤研究（B）一般	2件
基盤研究（C）一般	3件
挑戦的萌芽研究	2件
若手研究（A）	1件
若手研究（B）	4件
学術図書	2件

## 2. 文化財の調査・整理事業

### 人文科学研究室

(公財)大和文化財保存会助成事業 奈良県内寺社所有の版木調査（継続中）

(公財)大和文化財保存会の助成を受けて行っている奈良県内寺社所有の版木の調査は、平成27年度も継続の予定である。

総本山長谷寺（奈良県桜井市）	長谷寺文化財調査整理事業（継続中）
壺阪山南法華寺(奈良県高取町)	古文書翻刻事業(継続中)
大阪府泉南市	泉南市文化財総合調査（継続中）
大阪府高槻市	高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成事業
大阪府堺市	法制文書課歴史資料整理事業
大阪府堺市	井上家所蔵資料整理事業
大阪府松原市	中山家古文書目録作成事業
香川県	札所寺院の史跡指定に係る曼荼羅寺文化財詳細調査
香川県	札所寺院の史跡指定に係る <sup>しゅつ</sup> 出釈迦寺文化財詳細調査
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る <sup>りゅうこう</sup> 龍光寺文化財詳細調査(その2)
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る <sup>めいせき</sup> 明石寺文化財詳細調査(その1)

長谷寺什宝類文化財調査と壺阪山南法華寺古文書翻刻事業は、平成27年度も継続して実施する予定である。

大阪府泉南市の文化財総合調査は11年度目を予定し、高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成事業は3年度目となる。本年度は堺市法制文書課と同文化財課から資料整理の事業を受託予定であり、松原市教委からも古文書目録作成業務委託の案件がある。

世界文化遺産指定推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務は、愛媛県では龍光寺が2年度目の調査を予定し、新たに明石寺を予定している。香川県では曼茶羅寺と出<sup>しゅつ</sup>釈迦寺の調査を予定している。

## 考古学研究室

香川県善通寺市	旧練兵場遺跡発掘調査遺物整理及び報告書作成事業
香川県丸亀市	城下町遺跡大手町3・4次調査出土遺物整理事業
和歌山県高野町	遺物整理報告書作成業務
奈良大学	企画展「発掘された古代国家」輸送・展示補助業務

善通寺市旧練兵場遺跡発掘調査は25年度に実施したが、27年度に遺物整理と報告書作成を行う。

平成18年度に当研究所が調査を行い、諸般の事情で調査報告書が未刊行の状態であった丸亀市丸亀城跡（大手町地区）4次調査出土資料整理は、3年度計画の2年度目で遺構図版の作成と文章を執筆する。

和歌山県高野町の遺物整理報告書作成業務は、報告書作成までの一環として、平成27年度は26年度に引続き高野山奥の院大名墓の実測調査を予定している。

奈良大学附属博物館の企画展における輸送・展示補助業務は昨年集荷・展示を主な作業としたが、次年度は、返却業務を主とする。

この他、県内での発掘調査を予定している。

## 記録資料調査修復室

千葉県佐倉市	国立歴史民俗博物館	所蔵資料の状態調査
--------	-----------	-----------

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は10年目を迎える。歴博内では館内業務の位置付けを再検討する時期とのことだが、平成27年度は引き続き現地調査員を駐在させての委託業務として状態調査を行なう。「婚礼衣裳・婚礼用具及び生活用具」および「ミニコミ資料」の状態調査を予定している。

## 保存科学研究室

近つ飛鳥博物館（大阪府太子町） 大修羅の保存状態調査  
浦添市教育委員会（沖縄県） ようどれ石厨子の保管環境調査

文化財を後世に伝えるには、資料の劣化を防ぐために収蔵環境を適切に保つ必要がある。温湿度・生物被害・空気汚染・光環境等の劣化要因について計測し、資料の劣化状態を調査することによって保存環境の改善計画策定を行なっている。

## 奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（5）

奈良市内における石造物の悉皆調査は1989年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

平成27年度も平成26年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔について詳細な調査を行なう。

## 3. 文化財の分析事業

### 保存科学研究室

厚真町（北海道勇払郡） 出土金属製品の自然科学分析

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析、琥珀の産地同定等を行う。

## 4. 文化財の保存修復事業

### 伝世資料修復室

対馬丸記念館（沖縄県那覇市） 対馬丸記念館所蔵ランドセルの保存処理  
大分県佐伯市 重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具保存処理  
沖縄県浦添市 ようどれ石厨子の保存処理  
岩手県陸前高田市 登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」保存修復業務  
浅間寺（兵庫県養父市） 十二神将の修復

対馬丸記念館所蔵ランドセルの保存処理は、1944（昭和19）年8月21日対馬丸に乗船し沖縄から本土に疎開時に撃沈された学童が所持していた赤・黒2つのランドセル（遺品）の保存処理を行うことが決定している。

重要文化財『蒲江の漁撈用具』保存処理事業が平成26年度で移動可能な資料の保存処理は概ね完了したため、27・28年度とで中型木造漁船の修復を現地処置にて行う予定である。

浦添城（グスク）の北側崖下にある琉球王国初期の王陵の石室にあった石厨子の石材強化を中心とした作業を引き続き行う予定である。

東日本大震災により被災した登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」の保存処理を平成26年度に続き行う予定である。

浅間寺所蔵十二神将像の修復は、室町期造像市指定文化財の十二神将像を修復する予定である。

### 記録資料調査修復室

名古屋大学（愛知県名古屋市）	古文書・書籍の修復
安芸市歴史資料館（高知県安芸市）	絵図面の修復
清水建設株式会社（東京都中央区）	儀式道具の修復
圓光寺（兵庫県たつの市）	名号掛軸の修復

文書・絵図類の修復事業は漉嵌法<sup>すきばめほう</sup>を中心に継続して進めており、名古屋大学、安芸市立歴史資料館などの修復を実施する予定である。継続してメンテナンスを進めている清水建設株式会社所蔵資料の修復も引き続き着手する予定である。また平成26年度より進めている播磨地域の寺院の名号修復を圓光寺他数か所実施する予定である。

### 木器保存研究室

出雲大社（島根県出雲市）	重文出雲大社境内遺跡 <sup>けいだい</sup> 出土品の保存処理
滋賀県東近江市	重要文化財雪野山古墳出土漆製品の保存修理
愛知県清須市	清州城下町遺跡出土柿 <sup>こけらきょう</sup> 経の保存処理
岩手県奥州市	胆沢城 <sup>いさわじょう</sup> 出土木製品の保存処理
熊本県	曾畑貝塚 <sup>そばたかいづか</sup> 出土植物性遺物保存処理

平成23年度から5か年事業で出雲大社所蔵の重要文化財出雲境内遺跡<sup>けいだい</sup>出土の心御柱3本（鎌倉時代）他の保存処理をおこなっている。平成27年度はPEG100%含浸までの含浸作業をおこなった後に、PEG溶液内から出槽する予定である。

平成26年度から継続している東近江市雪野山古墳（古墳時代）出土の靱や豎櫛などの漆製品の修理を行なう予定である。

他に、清州城下町遺跡（室町時代）から出土した柿<sup>こぼらきょう</sup>経<sup>いさわじょう</sup>や胆沢城（平安時代）から出土した木製品の保存処理や、平成3～6年度にわたり保存処理を行なった曾畑貝塚（縄文時代前期）出土植物性遺物の再修理を実施する予定である。

## 金属器保存研究室

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）

国宝神庭荒神谷遺跡出土青銅製品の保存修理

福島県会津若松市

重要文化財会津大塚山古墳出土品の保存修理

広島県立歴史博物館（広島県福山市）

重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品保存修理

文化庁（橿原考古学研究所附属博物館保管）

国宝藤ノ木古墳出土青銅鏡の保存修理

国宝の保存修理として、平成22年度から継続している島根県神庭荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の修理を行う。

重要文化財では、平成25年度から福島県会津若松市・会津大塚山古墳（古墳時代前期）出土品の保存修理を行っており、平成27年度も引き続き作業を行う。

他に兵広島県福山市・草戸千軒町遺跡（中世）出土品の保存修理を行う予定である。

その他、主要な事業として宗像大社所蔵・国宝沖ノ島祭祀遺跡（古墳時代から奈良時代）出土金属製品の保存処理や、奈良国立博物館所蔵・五条猫塚古墳（古墳時代中期）出土鉄製品の保存処理、鹿児島県・立小野堀遺跡（古墳時代中期）出土鉄器の保存処理・分析・実測図作成の事業について対応を検討中である。

## 土器修復室

文化庁（九州歴史資料館保管）

重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土品保存修理

国の指定文化財の修理としては、平成23年度から5か年計画で、重要文化財福岡県・栗田遺跡祭祀遺構（弥生時代）出土品（甕棺）の保存修理を行っており、平成27年度は5個の甕棺の修理を予定している。他に埼玉県朝霞市出土の彩文土器の保存修理などを予定している

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成27年度は昨年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施する予定である。

## 5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

### 企画展の開催

春季企画展『小仏塔の世界—元興寺の宝物から—』 ※(宗)元興寺と共催

元興寺には五重小塔をはじめ、小さな仏塔が多数伝来している。

特に納骨五輪塔や笹塔婆をはじめとする中世庶民信仰資料中に含まれる小仏塔の世界は、中世元興寺の性格を物語るうえで欠かせぬ資料である。

今回の展示では、国宝五重小塔について解説するほか、中世の仏塔にもスポットを当て、元興寺に残る仏塔の世界から庶民の信仰を考えてみる。

開催期間 平成27年4月25日(土)～5月10日(日)

開催場所 元興寺法輪館

### 秋季特別展の開催

『小仏塔の世界—古代・中世編—』 ※(宗)元興寺と共催

春季の展示に引き続いて、小仏塔の世界を考える。

古代から中世にかけて日本の仏塔は、用途や形のうえで多様な展開を見せる。

小型化した仏塔を中心にその多様性を観察する展示を行う予定。

開催期間 平成27年10月下旬～11月上旬(予定) ※正倉院展と同時期

開催場所 元興寺法輪館

### 『発掘された日本列島2015』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務の企画競争による平成27年度公募に企画提案書を提出し、審査結果を待っている。

平成26年度は「発掘された日本列島」展が20周年目を迎えたため、従来中核展示・テーマ展示の二部構成であったが、「日本発掘」展が記念企画として加わることにより三部構成で1,200点を超える資料展示となった。しかし27年度は従来の二部構成に戻り、出品点数も530点程度である。

業務内容は、本展に関わる出陳物の集荷・納品に係る輸送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理のほか、開催予定各館との調整など多岐にわたる。

開催館は平成23年度以降5館が定着し、平成27年度も東京都江戸東京博物館、富山県埋蔵文化財センター、栃木県立博物館、岡山県立博物館、岩手県立博物館の5館での開催予定となっている。

中核展示には旧石器から近代までの9遺跡の資料が、テーマ展示は特集1「(仮称)東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護」と題し震災復興に先立ち発掘調査された7遺跡の資料が展示される。特集2では「(仮称)全国史跡整備市町村協議会50周年記念」と題し、50年間にわたり行われてきた文化財の整備、文化財保護と活用に資するために活動や史跡整備の事例として2遺跡を紹介しつつ、その活動の意義を広く紹介するための展示を行う。

## 6. 報告書、書籍等の刊行

### 公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2015』（1,300冊）刊行予定

平成23年度からは（公財）畠山文化財団からの助成金を受けて刊行している。

平成27年度については、現在申請中である。

## 7. 体験活動

研究、調査成果を還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。